

## 農業共済新聞 千葉版 投稿

掲載号	8 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	室長 齊藤 研二
題名	施設栽培土壌の現状と今後の適正管理	
備考	【図説明】 図1 土壌診断基準値からみた不足、適正及び過剰の調査地点の割合	

### 【本文】

#### ◇施設栽培土壌の特徴と肥料成分の蓄積状況

千葉県の年間降水量は約 1,500mm で、その半分の約 750mm が地下に浸透します。露地栽培では、この約 750mm の浸透水によって土壌中の養分が下層に洗い流されます。しかし、施設栽培では、農作物の生育に必要なかん水しか行われなため、土壌中の養分は洗い流されずそのまま土壌中に残ります。

そこで、施設栽培土壌の可給態リン酸及び交換性陽イオン（石灰、苦土、加里）含量の実態調査を行い、その結果を図 1 に示しました。野菜施設ではリン酸が、土壌診断の基準値に比べて過剰となっている圃場が半分以上を占めました。また、花施設ではリン酸、石灰及び苦土が過剰となっている圃場が 3 割以上ありました。

#### ◇施設栽培における土壌管理

このような土壌中の養分含量が過剰となっている圃場では、土壌診断を行って適正な施肥を行うことが大切です。しかし、意外と見落としがちなのが、堆肥に含まれる肥料成分です。これからは、堆肥の肥料成分も考慮して施肥設計を行うことが大切です。

その際に使える便利なシステムが千葉県施肥設計支援システム「エコ FIT」です。パソコンの表計算ソフト Excel 上で動作するので、操作は簡単です。施用したい窒素、リン酸、加里、石灰及び苦土の成分量を入力すると、それに対応した化学肥料、有機質肥料及び堆肥の施用量が算出できます。

「エコ FIT」を入手するためには、県庁担い手支援課へ利用申請書を提出する必要があります。配布希望の方は、担い手支援課技術振興室（TEL 043-223-2907）までお問い合わせ下さい。

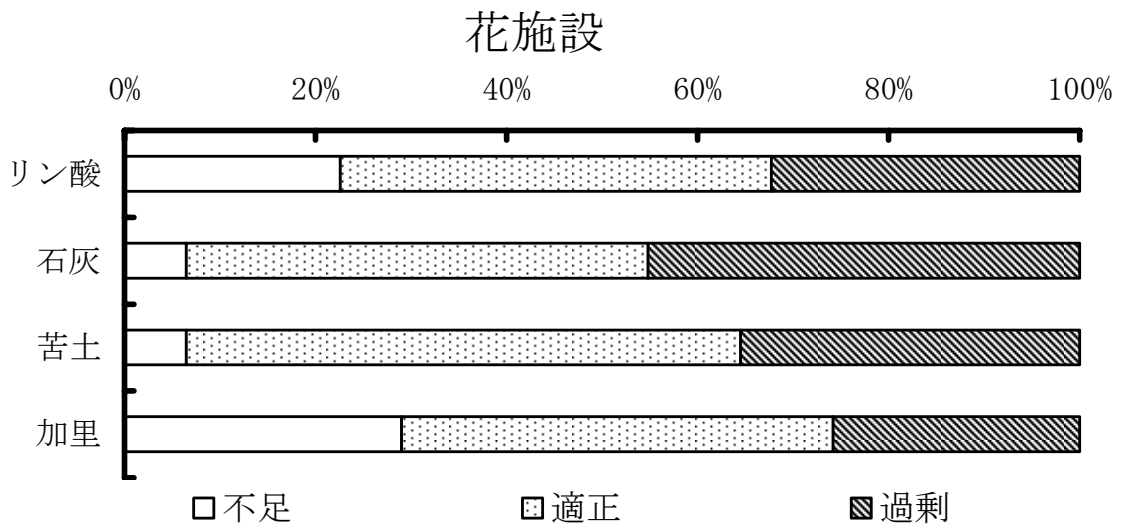
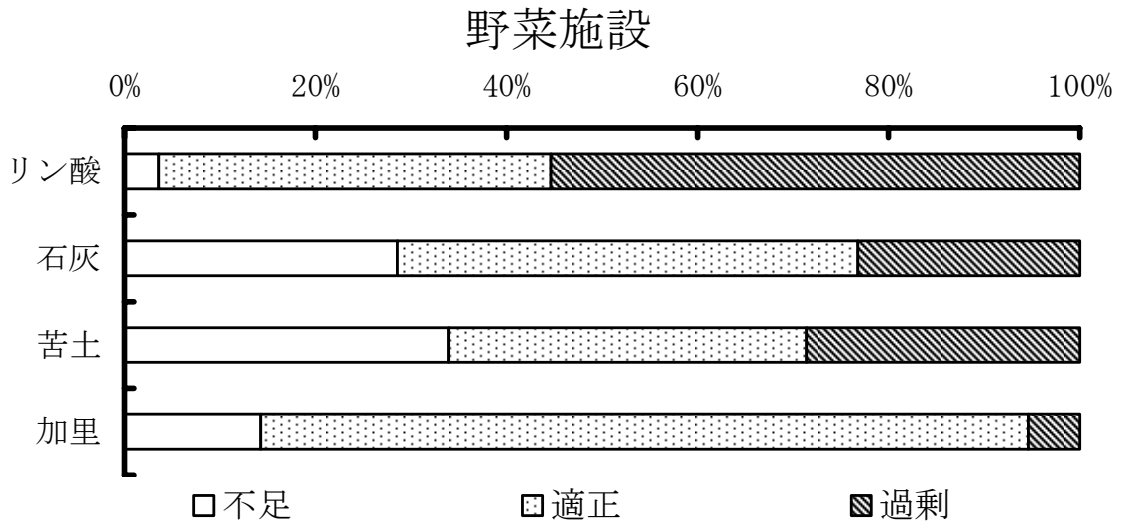


図1 土壌診断基準値からみた不足、適正及び過剰の調査地点の割合  
(平成16～20年度土壌モニタリング調査結果より)